第１３回（令和６年度第６回）府中市生涯学習審議会会議録

１　日　時　令和７年１月２４日（金）午後３時～５時

２　場　所　府中市立中央文化センター　第２会議室

３　出席者（敬称略）

⑴　委員１２名

市村忠司委員、上野和憲委員、榎本成子委員、佐野洋委員、白信康委員、関川けい子委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、長畑誠委員、中村洋子委員、福田豊委員、渡邊和子委員

※　池田和彦委員、今関紘二委員、江﨑章子委員欠席

⑵　職員５名

平澤文化生涯学習課長、斎藤文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、栗原主任、竹川事務職員

４　報告事項等

⑴　配布資料の確認

ア　資料１　第１２回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ　資料２　令和６年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会資料

ウ　資料３　第１１期府中市生涯学習審議会答申案（見え消しあり）

エ　資料４　第１１期府中市生涯学習審議会答申案

⑵　前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

⑶　令和６年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

当日の実施内容について会長から報告があった。

５　審議事項

「これからの生涯学習を支える『公共』の役割について」

会長：　今日が今期の審議会の最終回となる。本日のこの場において答申を確定したい。字句の修正でどうしてもこの場で決められないことがあれば、正副会長に一任という形を取らせていただくかもしれない。

資料３と４について、３は表紙がない資料で、４は表紙がある。資料

４が現段階での最終案である。皆さんへ事前送付した答申案に対して、何人かの委員から修正提案があり、それを受けて手を入れたものになっている。

資料３では、事前送付した答申案と、最終案のどこが変わったのかが分かるよう、見え消しの形で表記しているので、資料３を見ながら進めていきたい。

資料３の１ページ目の下の方に四角く囲ってある箇所があり、全体で３点あるが、これは、修正の提案をいただいたが、正副会長と事務局でどのように修正をするか悩んだ箇所となっており、そのままの表記になっている。これは後で審議したい。

今日の進め方としては、答申最終案を私の方で読み上げて、修正提案によってどのように変わったかということと、これで良いかということを確認しながら進めていく。

≪「はじめに」読み上げ≫

修正した箇所については、１段落目の「検討すべき時期である」を「検討する時期と考えられる」に修正した。また、「あり方」と３か所記載があるが、副題で「あるべき姿」としていて、「あり方」がたくさんあるので変えた方がいいのではないかという指摘があったため、少し表現を変えた。

最後の行では「その指針となるべく要点をまとめた」とあるが、「要点を」という箇所が不要ではないかという意見があった。

ただこれを取ると、「その指針となるべくまとめたのが本答申である。」となり、どちらが良いか私も決めかねた。

意見の中には「答申というものは要点である」ということもあったが、もう１度意見を聞きたい。

委員：　修正が必要な理由は２つあり、１つは、答申書自体が要点をまとめたものという意味で、意味として重なっているのではないかということ、また、２つ目は、要点をまとめたものがあるのであれば、要点をまとめてないものがあるのではないかと想像される。そのため、「要点を」という箇所を削った方が良いのではないかと考えた。

会長：　削除するとなると、「その指針となるべくまとめたのが本答申である」となる。ひらがなが続くので、途中に読点が入る方が読みやすいかもしれない。

委員：　最後を逆にして、「その指針となるべく、本答申をまとめた」とするのはどうか。

委員：　「指針をまとめた」だけではだめか。

会長：　確かにすっきりする。「その指針をまとめたのが、本答申である」ということにしたい。

委員：　２段落目５行目から６行目にかけて、「運営に関わる機能を明らかにすべく、学びとは何かについての」という箇所で、「学び」という言葉には、括弧付けで「学び」と強調して良いのではないかと思った。

会長：　その方がより強調されると思うので、学びにかぎ括弧を入れることにする。
　他になければ次に進める。

≪「１　これからの社会環境」読み上げ≫

「単身世帯」を「一人世帯」とした箇所、首都直下地震の部分、脚注の部分などいくつか意見があり修正したが、他に何か意見はあるか。

委員：　２ページ目４行目の「データに基づく厳密な分析ではなく」という表現について、我々のものは厳密でなくて曖昧なのかという感じがして気になる。例えば、「データオリエンテッド」とする。もし、横文字を避けるのであれば、「データ重視の」だとか、そのような表現の方がいいのではないかと思う。
　また、脚注の付け方だが、これは習慣的なものなのかもしれないが、例えばＡを右肩につけるときには半括弧をつけることが多い。

会長：　最初１，２だったものをＡ，Ｂに直そうとしたときに気がつかなかったのかもしれない。括弧は右側に１個だけつけるという形か。

委員：　そのとおりである。

委員：　どちらでもいいが、注１、＊１などの形式を使ってるものが多いと思う。

会長：　Ｗｏｒｄで指定すればできると思う。ただの１などの数字になると、２乗とか３乗で紛らわしいという意見があったので、何かないかと考えた。数字だけではなく、注をつけるか、括弧を付けるか、アスタリスクをつけるかなどはお任せいただきたい。
　データに関する指摘についてはいかがか。

委員：　「厳密な」という文言を取るだけでも良いと思う。「厳密な」という言

葉を使われたのと同じような意味合いで、「データ重視の」という提案をしたが、「厳密な」がなくなればどちらでも良いと思う。

会長：　データ重視ではないことは確かなので、「ただし、コンサルティング・ファームが行うようなデータ重視の分析ではなく」という表現でいかがか。

委員：　「厳密な」という部分を取ってもらえれば、それで良い。

会長：　そのように修正する。他に何か気になる点はあるか。

委員：　１段落目３行目の「府中市はどんな社会環境に」という箇所は、文章的には「どんな」ではなく「どのような」の方が良いと思う。
　２段落目５行目終わりの「さらに、後述のデジタル社会」という箇所の「さらに」というひらがなは、同じページの下の方で「更に」と漢字に修正している箇所があるため、揃えた方が良いと思う。
　また、３ページの８行目「７０パーセント」とカタカナでパーセントを記載しているが、２ページでは「％」という記号になっているので、それも揃えた方が良いのではないかと思う。

会長：　まず１点目の、「どんな社会環境」というを「どのような社会環境」に変えるという点、「どんな」というと口語的なので、「どのような」に修正する。
　２点目の「さらに」については、揃えるかどうか。

事務局：　公用文では、接続詞はひらがなで、副詞は漢字を使用するということになっている。

会長：　ご指摘部分は接続詞なのでひらがなのままとする。
　次に、「％」の表記については、記号に合わせる形で３ページ目を修正する。

委員：　いくつか何％という数字が出ているが、出典などの根拠を書く必要はないか。
　また、３段落目の２行目に声を上げづらかったということで列挙されているが、ここに女性は入るのだろうか。女性が声を上げづらかったのは確かにそうだが、少し感覚が違うような気がする。

委員：　女性だけではなく、男性も入れたらどうか。

委員：　人権問題のカテゴリーの中に女性はある。

会長：　実際声を上げづらかったことは確かだとは思う。ただ、全部横並びで良いのかどうかということ。例えば、女性を最初に持ってくるのはどうか。「女性、障害者、子ども」とするか、「女性、子ども、障害者」とするか。

委員：　男性の差別もある。入れるのであれば男性も入れる方が良いと思う。

会長：　そうなると、女性が声を上げづらかったということをあえて言わなくていいということになるか。

委員：　あえて言わなくて良いという意味ではなく、確かに女性は声を上げづらかったと思うし、声を上げている途中だとは思うが、ここに並列で書かれると違和感がある。

委員：　性的少数者はどういう意味か。

会長：　いわゆるＬＧＢＴＱと言われている方である。

委員：　それに女性も入るというわけではないか。

会長：　それは違うと思われる。「これまでマイノリティとして声を上げづらかった」と書いていて、女性がマイノリティであるという言い方になっているのでそこは修正した方が良さそうである。そういう意味では、ここに女性を入れなくても意味が通じる。

委員：　半分が女性なので、マイノリティではない。

会長：　あくまでマイノリティとして声を上げづらかったというところにかかっているのでということで、女性を入れないことにするのはどうか。

委員：　子どもはどうなるか。

会長：　社会の中で子どもはマイノリティと言えるのではないか。子どもは声を上げられず、子どもは黙ってろと言われてきたこともある。

委員：　障害者、外国人、性的少数者、貧困者のところまでマイノリティとして、その後に女性子どもを持ってくると全部使うことができる。

会長：　これまでマイノリティとして声を上げづらかった、障害者、外国人、性的少数者、貧困者、さらに女性や子どもたちの権利を守る動きが盛んになってきている、というような形か。「さらに」よりは「また」の方が

良いか。

委員：　「さらに」というと少し強いイメージになってしまうかもしれない。

会長：　確認すると、「障害者、外国人、性的少数者、貧困者」で一旦切って、「また、女性や子どもの権利を守る動きが盛んになってきている」とする。

委員：　男性は入れなくていいのか。男性、女性、子どもと並べる。

会長：　そうなると全員になってしまう。多様化というのは、今まで中心的に使われてきた人たちだけではなく、色々な人たちがいるということ。
　その主流という意味で言うと、女性と比べたら、男性は主流であったと言わざるを得ないと思う。個人レベルでは別かもしれないが。
　なので、やはり女性と子どもというのはここで挙げた方が良いと思う。
　また、もう１点ご指摘いただいた数字の出典について、全ての数字の出典を入れなくてはいけなくなると少し大変になる。こういった文章に全て出典を入れなくてはいけないかどうか、市の方針に従いたい。

委員：　記載されているものは国が発表した数字なのか。

会長：　国の発表など、全て公的な統計を基に書いている。
　なのでこのような答申の文章において、出典を全て入れなくてはいけないという決まりが府中市でなければ、このままで良いと思っている。

委員：　３ページ７行目の「また、他方」という部分があるが、「また」か「他方」のどちらだけでも良いのではないか。

会長：　「他方」だけに修正する。では次にいきたい。

≪「２　これからの生涯学習」読み上げ≫

　修正箇所については、２段落目の文末の「必要とされよう」となっていた部分の表現を変えた箇所、３段落目の「整備」の部分は、何をどう整備をしたのかわからないという指摘があったので、修正した。４段落目では、「高負担感」というのは意味が違うのではないかという指摘、また、括弧が多く、その言葉を更に説明しなければならなくなると思ったので、括弧を取る形で修正した。
　４ページの１行目は媒介者の後に括弧書きで仲介者としていた部分を「媒介者あるいは仲介者」に並列して記載しても良いのではという指摘があったのでそのように修正し、また、段落の最後の文章について、

主語が分からないという指摘があったので修正した。他にも何かあるか。

委員：　４ページ目１行目から２行目にかけて、媒介者と仲介者を併記してもいい良いのではないかと説明があったが、媒介者と仲介者というのは何か重複感がある。むしろその後に、「支援者」という言葉を入れる方が、行政の役割を期待するという気持ちが出るのではないか。

会長：　「支援者」ということも大事であるということか。そもそも、媒介者と仲介者の違いは何か。指摘をいただいた中では、媒介者というのは異なる組織をつなぐというような意味で、仲介者は市民の間との仲介みたいなことではないかという意見だったが、どちらにしても間をつなぐということには違いない。

　ただ、読む人がこれはどう違うんだろうと迷わないようにした方がいいのかもしれない。副会長の意見はいかがか。

副会長：　媒介者と支援者を入れるのが良いのではないか。

会長：　媒介者と、今提案のあった支援者というのも大事な考え方かもしれないので、「媒介者や支援者としての行政」とするのはどうか。

委員：　媒介者という表現は一般的にこういう場面で使われるのか。仲介者とどう違うのか。

会長：　仲介者というと喧嘩の仲介、仲裁のようなイメージがある。

委員：　仲介というと、間をただ取りなすだけということにも思えるが、どうか。

会長：　どちらも間に立つ役割である。支援というのは正に支えるという意味だが、２つをつなぐという表現としては何が良いのか。

委員：　媒介という言葉は、比較的法律用語で使われている。答申の後ろの方にコンシェルジュという言葉が出てくるが、この時に媒介者と仲介者は明確に違うと私は意識していた。

　媒介者というと、例えば文化生涯学習課がプラッツやフチュールに対して、また、生涯学習センターが文化センターに対してという、組織対組織の関係が出てきたときに、自分たち独自での判断ではなくて、上の判断を組織的に仰がなければいけない、稟議が必要だ、またお金が必要だというような関係性の時に使うのではないか。

　例えば、場所を借りるためにお金がかかるというような形の連携の場合には、媒介という言葉の方が合うのではないか。

それに対し、仲介というのはいわゆる紹介的なもの、間を取るという活動に使う言葉ではないか。これお願いします、「はい。分かりました。」、というようなことかもしれないし、ボランティアが間に入って、こんなことやってる人がいるけど、こう聞いてみたらどうか、などの軽い、媒介には至らないものではないか。仲介、紹介、むしろ支援者という言葉よりも例えば仲介者というところにスラッシュを入れて、紹介者とするなど。紹介という平たい言い方の方が良いのかもしれない。

やはり媒介と仲介という言葉は違うという認識が私にはある。

会長：　そうなると、注釈をつけた方が良いか。

委員：　注釈は多くない方がいい。

委員：　今ＷＥＢで検索をしてみたら、媒介と仲介というのはどちらも意味は同じものだが、という前置きがあり、その上で、媒介とは、主に宅地建物取引業法に基づく行為を指し、一方、仲介は法律的な意味が薄れて、ビジネス的なニュアンスがない場合にも使われるという説明が書かれている。似たようなものというのは、ポイントだと思う。ここは法律的な話をしているわけではないから、皆さんに通じる表現でいいのではないか。

会長：　間に立つということが１つのポイントである。それを平易な言葉で言うとしたら何がいいか。

副会長：　平易な表現となると、仲立ちとか口利きとかそういう表現か。

会長：　媒介者と仲介者という表現を比べると、仲介者の方が一般的な言葉だと思う。この後にハブとコンシェルジュの話につながっていくという意味では、この間に立つという役割がとても重要になってくると思う。

委員：　コーディネーターというのはどうか。

会長：　コーディネーターというイメージはある。間に立って、色々と調整してくれるという部分をコーディネーターという表現にするということ。そうなると、支援者という言葉も、英語にしないといけないか。

支援者を英語にしようとすると、サポーターという表現になるが、行政がサポーターとしての役割があるとなると、それは若干イメージが違う。「コーディネーターや支援者としての行政の役割」とすると、英語と日本語になっている部分に特に違和感がなければそれもあり得る。

コーディネーターというのが次につながってくる。間に立つという意味で、媒介・仲介という言葉をあえて使わず、コーディネーターという

表現を使うということに対して、他に意見はあるか。

委員：　あとは援助という言葉もある。

会長：　それは支援という意味になるのではないか。間に立つというのは、どうしても仲介という表現になってしまう。ただ、仲介よりもコーディネーターと言った方が読む人にとってイメージしやすいのであれば、その方がいいと思う。

委員：　色々な意見があり参考になるが、それぞれの方がそれぞれの語感を持っているということが良く分かったので、ここは会長に一任して、会長のセンスでまとめていただけないかいう提案をしたい。

会長：　要するに、間に立つということ、支援するというこの２つが大事だということだと思うので、それを最終的にどういう言葉にするのかについては、会長副会長へ一任という形にさせていただきたい。

　他の点で何かあるか。

委員：　「２．これからの生涯学習」のそれぞれ段落の最初に、「次に」、「まず」、「次に」、「さらに」という言葉が段落の最初に来ている。３つ目の最初の「次に」は「そして」や「それから」など別の接続詞に変えてもいいのではないかと思う。

　２段落目の下から２行目「学び、学びあえる場」の「あえる」というのは、漢字にするとしたら、「合う」という字なのか「会う」という字なのか、ひらがなのままが良いのか、どうか。

会長：　接続詞の問題は、重なっているという意味では、３段落目の「次に」を別の表現に変えるというのはご指摘のとおりだと思う。

委員：　１段落目の最初の「次に」を取るのはどうか。

会長：　確かに、そもそも始まりの部分なので「次に」はなくて良い。では冒頭の「次に」を取る形に修正する。

　それから「学びあい」については、後の方では「合う」という漢字にしている。統一という意味では「合う」という漢字にした方が良いと思う。

委員：　「１．これからの社会環境」に戻るが、１行目の「考えることに当たって」という箇所があり、会長が読みにくそうであった。ここは「考えるに当たり」が良いのではないか。

会長：　「考えるに当たり」だと読みやすくなるので修正したい。

委員：　では私も１に戻るが、３ページ目の２の直前、下から２行目「市民との共助と協働によって」という箇所だが、これは「と」がいらないのではないか。「市民の共助と協働」ではないか。

会長：　そのように修正する。他に意見がなければ次の３に移る。

≪「３．府中市の生涯学習が抱える課題」読み上げ≫

会長：　修正箇所について、ほとんどが表現を変えただけである。中身の部分については、⑴の広報が足りていないという部分は少し修正してあるが、意見があればお願いしたい。

委員：　⑴の文末で、広報が足りていないという部分を削除するということだが、他の表現にして残した方がいいのではないか。

会長：　「生涯学習センター・文化センターの活動を知ってもらう広報が足りず、若い世代の市民を取り込むことも不十分である。」という形で、広報のことにも言及しつつ、若い世代の市民を取り込むこともできてないという言い方に修正したい。

委員：　⑶の中で「育んできた府中市民と、学びたい府中市民」という風に「府中市民」が２つ出てくる。あえて府中市民と言わず、これは「市民」、「市民」で良いのではないか。

会長：　府中を両方とも取ることとする。

委員：　⑶の上から４行目「資源とつながるにはどうしたらいいのか」の「いい」という言葉について、これも口語的だと思うので、「良い」と漢字にした方が良いのではないか。

会長：　漢字を使うべきかひらがなか、こちらで検討する。
　他に意見がなければ、次の４番に移る。

≪「４．これからの府中市における「生涯学習の拠点」の役割」読み上げ≫

会長：　修正箇所としては、ハブとコンシェルジュの役割についての説明を１文加えた部分である。

委員：　４の⑴と⑵のタイトル部分にアンダーラインがあるが、これはどういう意味か。

会長：　新しいコンセプトということで、この部分を強調した。

委員：　本文の４行目「自らが講座を提供するプロバイダーとしての役割よりも、市全体のハブ及びコンシェルジュとしての役割」とあるが、プロバイダーとしての役割よりもハブやコンシェルジュの方が上だということはないのではないか。根本的なこと言うと文章が全部おかしくなってしまうかもしれないが、文章を直すとしたら、「役割だけでなく」とした方がいいのではないかと思う。

会長：　ここについてはあまり皆さんとお話をできてなかったかもしれない。表現が強くなり過ぎたという気持ちは私もある。決してプロバイダーがなくなって良いということではない。採算ベースにのらないようなものなど、いわゆる民間でやっている講座等ではカバーできないものも必ずあるとは思う。やはり公的な機関がカバーするということも大切だと私も思う。ただ、ハブとコンシェルジュを強調したかったということもあり、このような表現になったが、ご指摘はもっともである。

委員：　確かに、「役割よりも」というのは少し強すぎる。「役割だけでなく」が良いと思う。

会長：　そうしたら、「役割だけでなく」に修正したい。

委員：　重要な要素だと思う。

委員：　「だけでなく」に直すと、文末の表現も見直す必要がある。

会長：　文末は、「『ハブ』及び『コンシェルジュ』としての役割が今後より必要となって来ると考えられる」というような表現に修正する。

委員：　⑴に関して、前回も体力のことを話したが、施設の中にスポーツ施設が入っていない。文化センター、小・中学校など列挙されている中に、スポーツ施設も入れておいた方がいいと思う。

会長：　市として「学習施設」の中にスポーツ施設も入るという認識になるのか。

委員：　市の組織としては同じ部にスポーツタウン推進課も入っている。ここに入れてもいいのではないかと思う。

事務局：　「社会教育施設」の中にはスポーツ施設も入る。

会長：　「学習施設」を「社会教育施設」と変えるのが良いか。

事務局：　市民活動センターと男女共同参画センターは社会教育施設ではない。

会長：　「学習・社会教育施設」、「多様な生涯学習・社会教育施設」として、括弧の中に何を入れるか。男女共同参画センターの次に、スポーツ施設等となるか。実際に市民が学びたいというときに、スポーツ施設ともうまくつながれれば、より得られることも増えてくると思うので、ここに入れることは良いと思う。生涯学習センター自体がスポーツの機能を持つという話ではないが。

事務局：　ここには小・中学校も入っているので、その表現だと正しくないかもしれない。

会長：　「学習・社会教育施設」とするか。小・中学校は生涯学習とか社会教育の施設ではないと言われたら、そんなことはないと言えるとは思うが。

事務局：　学習をとって「多様な施設」とする手段もある。

会長：　色々組み合わせてしまって、混乱している。あえて言えば、「多様な公共施設」か。括弧の中に様々な施設があれば分かると思うので、「学習施設」を「公共施設」に修正し、括弧内にスポーツ施設を入れることとする。

委員：　⑵の下から４行目の「この役割は生涯学習センターの職員だけではなく」という箇所だが、私としては、「生涯学習センターや図書館の」と入れると、もっと幅が広がるのではないかと思う。コンシェルジュのイメージとして私が強く持ってるのは、やはり図書館司書のレファレンスサービスで、図書館がここに入ると、もう１つの生涯学習の軸としての図書館の存在も忘れていないということになる気がする。

会長：　最初に「生涯学習センターとして今後担うべき役割」と書いているため、そのつながりで生涯学習センターの職員だけではだけではなくという書き方になっている。

委員：　図書館協議会の方でも生涯学習ということを強く意識しており、その役割を果たすことに熱心に取り組んでいる。府中市としてのバランスの取れた生涯学習の拠点づくりということを我々も念頭に置いておく必要がある。今回我々は学習センターを中心に議論しているということでそれで良いとは思うが、インターフェースのように図書館が入っていた方がいいような気がする。

会長：　逃げになるかもしれないが、「生涯学習センターの職員だけではなく」という部分を消すのはどうか。生涯学習ファシリテーターなど、様々な人材、ＡＩによって担われることもあるので、職員がやることを否定はしていない。どうしても最初に「生涯学習センターとして担うべき役割」と言っているので、図書館が入ってくると、若干唐突感がある。

委員：　社会教育士、生涯学習ファシリテーターと列挙されている後に「図書館司書」という形で入れるのも１つの手ではないかと思う。

会長：　そうしたら、「この役割は生涯学習センターの職員だけではなく、社会教育士や図書館司書、生涯学習ファシリテーター、生涯学習ボランティア等、様々な形の人材やデジタル化によるＡＩによって担われる」と修正したい。

委員：　⑵で、「総合的にお世話をする役割」という箇所があるが、「お」を取った方が良いのではないか。

会長：　「総合的に世話をする役割」に修正する。

委員：　最初の段落の下から４行目の「興味関心」という言葉があるが、普段目にしているのは「興味・関心」と間に「・」を入れている。
　⑴の上から２行目の「ネットワークを結節点という意味が持たれている」という箇所について、「意味を持つ」というときには、自分は普段ひらがなで「もつ」と記載する。ひらがなではどうか。

会長：　そのように修正する。では他に意見がなければ５番に移る。

≪「５　これからの府中市における「生涯学習の拠点」の機能」読み上げ≫

会長：　修正箇所としては、表現を少し変えた部分があるが、今日この場で検討したい箇所として、⑸の部分で、機能をカテゴライズ化した表現でまとめるのが良いのではないかという意見があった。工房や版画室と記載するは具体的過ぎるのではないかという指摘である。
　この部分は昨年の中間答申を基本的にはそのまま持ってきて、それを少し簡略化しているだけなので、大きく変えることは中間答申との齟齬が出てくる。難しいと思うが、表現等で何かあるか。
　また、この「音楽・演劇・ダンス・美術・工芸・映像等」ということについての意見は、他にも舞踊や民芸、漫画・アニメなどキリがなくなるのでもう「文化・芸術活動」として括弧内は削除して良いのではないかという意見だった。実際に文化・芸術活動をしている委員に意見を聞きたい。

委員：　括弧の中に書かれているもの以外では、華道、書道、茶道など様々な活動がある。「府中市に根付く多様な文化・芸術活動」として、括弧内をなくすことにしてはどうか。

委員：　市内に色々な連盟もあるので、括弧内はなくしてまとめた方が良いと思う。

会長：　ここは「多様な」を追加し、括弧内は削除することにする。
　その次の、「工房や版画室」という記載について。工房や版画室、小ホールやスタジオのような施設が今後もあってもいいのではないかという言い方をしているが、逆に工房や版画室と細かく書いてしまうと、その施設がなくてはいけなくなるとかいう話になるか。

委員：　その前の部分では「文化・芸術活動」という広い括りで表現することにしたので、それに対応する記載が良いのではないか。文頭に「対面での活動が欠かせない」とあり、具体的な音楽、芸術、ダンス、美術、工芸など違う切り口になっている。例えば「創作系」、「発表系」など、そのような言葉で、対面での活動を表すのはどうか。ただ、創作系や発表系だけかというと、何か足りないような気がする。

会長：　例えば先ほどの茶道などは創作系とは言わない。１つは、創作系、もう１つが舞台発表系、もう１つは伝統文化系とまとめるのはどうか。伝統文化のために必要な部屋というものがあるかもしれない。
　新たに作られる施設がどうなるかということに関わってくるので、あまり限定せず、自由度があるようにしたい。「対面での活動が欠かせない、創作系、舞台発表系、伝統文化系などの活動に対応できる諸室」とする。一応「など」も入れておく。

委員：　⑷の矢印の箇所で、「Ｗｉ－Ｆｉ環境の整備、パソコンや配信機器などの貸出し」とあるが、最近はパソコンの貸出しは需要がないのではないか。また、配信機器というのが何を指してるのか分からない。
　⑹のエコシステムについても、これは生態系のことだろうと思うので、どういう意味か分からない。ビジネスエコシステムというものもあるが、それではなくてエコシステムと言うと、どういう意味なのか。

会長：　まず、パソコンの貸出しは残すべきかどうか。

委員：　誰に貸し出すのか。子どもたちもほとんど今パソコンは使わず、学校でタブレットを使用している。

会長：　逆に言うと、タブレットの貸出しがある方がいいのか。

委員：　学校から貸与されているものを持っているから、貸し出す必要がないのではないか。

会長：　逆に持ってない人は、そこで借りて、習熟してから買おうという人もいるかもしれない。「パソコンなど」と記載しているため、「など」の中に入るという考え方はできる。配信機器というのは、オンライン配信の関係か。

副会長：　全部まとめて「電子機器」という記載をしたらどうか。いつの時代になっても電子機器はあると思う。

会長：　パソコンも配信機器もまとめて「電子機器」と修正したい。

委員：　私は貸出しのパソコンをプラッツで使用している。集まって会議をするときにパソコンを借りて、プロジェクターで大きく映して使用する。
　各自データをＵＳＢメモリで持ってきて利用しているが、パソコンを誰かが持ってくるというのは大変なので、貸し出してもらえると非常にありがたい。施設内の備品としてあると、会議をする時に非常に便利である。個人の貸出しではなく、会議等で使用する。

会長：　あえて言うならば、「電子機器などの館内貸出し」ということだ。館外での使用ではないため、館内貸出しに修正したいと思う。
　また、エコシステムについて、もう少し一般的な名詞にするとしたら、どうなるか。エネルギーに関係したものか。

委員：　太陽光発電か。

副会長：　災害時のエネルギー供給施設ということを示したい。

会長：　この表現は、正副会長で検討したい。

委員：　府中は非常にお祭りが多いことで有名だが、お祭りに関してはどう考えるべきか。パレードなど、生涯学習に関係するか。

会長：　府中市に根付く多様な文化・芸術活動の中には入る。ただ、今ここで話をしてるのが施設の設備の話なので、お祭りに携わる人たちが使えるような施設や設備についてとなると、先ほどの創作系、舞台発表系、伝統文化系に対応できる諸室という部分で対応できると思う。

委員：　公会堂などで練習をしている。

会長：　練習施設だったらこの中に入ってくる。太鼓の練習や、お祭りで使うものを作る場所など、諸室としてカバーできる。

委員：　⑷の学習サービスのデジタル化という箇所で、括弧してＤＸ化とあるが、私はＤＸという言葉がプロモーション用語であまり好きではない。要するにデジタルトランスフォーメーションというのはＩＴ化、デジタル化によって、従来の仕事の仕方や、やり方が根本的に変わること、トランスフォーメーションするということである。そういうことはないと思うので、単なるデジタル化でいいのではないか。

副会長：　削除でいいと思う。

会長：　削除でということなので、単に「デジタル化」に修正する。次のＧＸについてははこのままでいいということであれば、このままとする。

（異議なし）

委員：　５は⑴から⑹まであるが、⑴の文末は、「実感できる。」と句点がついていて、⑵から⑷までも同様に、「使える。」、「できる。」で終わっているが、⑸は「利活用の促進」となっていて、さらに、⑹は「対応できる」と句点なし、という形で揃っていないのではないか。

会長：　⑸は「府中市に根付く多様な文化・芸術活動を支援し、創造性を促進することができる。」という部分で切る。利活用については当然なのでここでは削除しても良さそうである。⑹の文末は、句点はあってもなくても、どちらかに統一して修正する。
　他に意見がなければ最後の「おわりに」に移る。

≪「おわりに」読み上げ≫

会長：　修正した箇所については、誰が主体か分からないという意見があったので、環境を維持することが重要であるという形で修正した。

委員：　２段落目の１行目の最後の部分、「それを考えることに当たって」という箇所が１と同じような言い回しになっている。

会長：　ここは１と合わせて「考えるに当たり」に修正する。
　今気が付いたが、２段落目の「若い世代を含む市民が自分たちの地域に誇りと愛着を持つことにつながり、市の持続的な発展にもつながる」と、「つながる」という言葉が２回出てきてしまっている。ここは、「若い世代を含む市民が自分たちの地域に誇りと愛着を持つことにつなが

り、市の持続的な発展に貢献する。発展に資する。」というように修正したいが、特にご意見がなければ、正副会長に任せていただきたい。

委員：　２段落目の下から２行目、「市民の参加を得て、長期的な視野を持って」という箇所について、「市民の参加」は「参加」で良いのか。「参画」という言葉もあると思うがどうか。

会長：　今の時代では、「参画」にした方が良いと思うので、「市民の参画を得て」に修正する。
　資料４についてだが、資料４には表紙があり、表紙にあるタイトルは、「これからの生涯学習を支える『公共』の役割について」とあり、これは諮問事項そのままとしていて、その後に副題がある。
　このタイトルで良いかどうか、併せて資料４の最後のページには、参考資料１と参考資料２がある。名前等、間違いがないか確認いただきたい。また、審議結果についても確認いただければと思う。

委員：　審議結果の中で、１２回目の令和６年１１月が１文字上がってたので、揃った方が良いと思う。

会長：　揃える形とする。

委員：　６回目の内容の部分も揃えたらどうか。

会長：　行を超えたところ、これも揃える。
　もう一度こちらで読み直して誤字脱字、それからレイアウト上のミス等については、正副会長に一任いただけるとありがたい。

委員：　全体を見て思ったが、目次がない。最初に「はじめに」があり、１から５まであって、最後に「おわりに」と続くが、目次のページを作るか、「はじめに」の下の方に入れたら良いのではないか。

会長：　場所は事務局と相談して目次を入れることとする。他に意見はあるか。

（意見なし）

　これで審議は終了とする。最後に副会長から一言いただきたい。

副会長：　２年間本当にお疲れ様でした。最終的にこの答申をまとめることができ、委員の皆さんの熱心な議論に大変感謝している。どうもありがとうございました。

会長：　本当に皆さんお疲れ様でした。何よりも色々な議論の中で、この答申書ができたということが私としても大変嬉しく思う。これからの自分自身にもいかしたいと思っている。